
俺に平安を!!

ライカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺に平安を！！

【Nコード】

N6811E

【作者名】

ライカ

【あらすじ】

幽霊の見える朗>あきらくは幽霊のみならず母親にも翻弄されている。

(前書き)

初めての執筆です。ホラーにしようとしたら何故かコメディになってしまいました…訳が解らないかも知れませんが、ぜひ読んでください。

俺の回りには常に人の気配がある。
小さい頃から他の人には見えないものが見えているらしい。

僕の名前は綾乃 朗＞あやの あきらく。
只今、テストの期間中！！

勉強に励む高校1年だ。

机に向かって一生懸命勉強している！！
しているのだ！！

俺の手がだんだんと怒りで震えてきた。

「うるさい！！」

「少しは静かにしろ！！」

机をダンと叩き後ろを振り向く。

部屋には誰も居ない。しかし、朗の目にはしっかりと人の姿が見えていた。

『いややわあ、朗さん。』

そんな怒らんといてや〜』

髪を結いあげ着物を着た女『お春』が笑って言う。

『そうだ、そんなに怒る事はないだろう？』

私たちは死後の世界について語り合っているのだよ』

軍人の姿をした男『群』《ぐん》が真面目な顔をして朗に言う。

俺の部屋には俗にいう幽霊が住み着いている。小さい頃からいつも当たり前の様にそば居たから、幽霊だと理解するのに少しばかり時間がかかってしまった。かかりすぎだよな…。

親に言えば、誰も居ないと言われ。

友達に言えばバカにされるか気味悪がれる。

俺は普通に人と話す様に幽霊ともお話ができてしまう。

「頼むから静かにしてくれお前等の話し声が五月蠅くて全然頭に入らない!!」

『わっちらのせいにしないでくんなまし。』

朗さんの集中力が足りないでやんすよ。』

『そうだ、我々は別に朗の邪魔をしようなどこれっぽっちも思っていない』

—お前等の存在自体が邪魔なんだよ!!—

なんて言った日には、さらに仲間を連れてくる事間違いない。

「わかったよ!

じゃ、俺は居間で勉強する!!

お前等はここで死後の世界だろうがなんだろうが好きに話してろ!!」

机から勉強道具一式を掴み足音も荒く部屋を出ていく

「着いてくんよ!!」

着いてきたらどんな手を使ってもお前等を成仏させてやる!!」

効かないであろう脅しを言って扉をボタンと閉める。

居間に下りた俺は怒鳴りすぎて疲れた喉を潤そうとキッチンに入る。

「あら、朗お勉強は?」

母さんが夕食を作っていた

「うるさいから下りてきた」

「うるさいって上には朗しか居ないじゃない」

母さんは幽霊が見えない。それでも、俺の事を否定しないでいてくれる。

それは:

「それとも、妖精さん達のお話がうるさかったの?」

母さんはメルヘンを信じている。

妖精とか、魔法とか:

だから、俺の事を否定しないでいてくれる…。

「あ、いや…妖精じゃなくて…

…何でもない…」

はあとため息をつく。

毎日のように繰り返される会話。

昨日は妖精じゃなくてエルフって言ってたなあ。

「あらあ違うの？残念ね」

ニコニコと笑顔で残念そうでなく言う。

「まあ、いいや。それより何か飲み物くれ」

「いくつ？」

妖精さんは何人いるの？」

「俺が飲むの！！」

「えー、朗ぼっかり妖精さんとお話してずるい！！」

妖精じゃありません！！

好きで話してる訳でもありません！！

って言ったところで、母さんも聞いてくれるわけない

ここは、グツと我慢して、無視！

うん、無視が一番！！

どうも、母さんの中では＞幽霊＜と＞妖精＜は同じものらしい。

そういえば、小さい頃、あそこに誰か居るって言ったら母さん

「あらあ、妖精さんが遊びに来たのかしら」

っていつも言ってたなあ

母さん！！貴女はなぜそこまでマイペースなんですか…

誰か、この俺の苦勞解ってくれる人いませんかあああ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6811e/>

俺に平安を!!

2011年1月27日05時34分発行